



2016-17年度
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム

Weekly Report Niigata



2016-17 年度
国際ロータリーのテーマ



2016～17 年度
新潟ロータリークラブ会長
宇尾野 隆

新潟 RC11 月第 1 例会 (2016.11.1) No.3157

(1) 「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

(2) 宇尾野 隆会長挨拶

11 月 1 日 アーチ・クランプとロータリー財団

今月は、ロータリー財団月間であります。ロータリーは、親睦と職業奉仕であると思いますが、近年 RI では、会員増強・公共イメージの向上・ロータリー財団にこの 3 点に重きを置いているように思います。今日は、ロータリー財団の設立についてお話をさせていただきたいと思います。ロータリー財団の提唱者は、クリーブランド RC のアーチ・クランプという人物であります。アーチ・クランプは、1869 年にペンシルバニア州カヌートビルの貧しい家庭に生まれました。家計の足しにするために 12 歳で学校を辞め、仕事に就きました。16 歳の時に、クヤホガ材木会社に入り、自分の考えで夜間学校に入学し、1 日の仕事を終えた後で電車賃を節約するために、片道 4 マイルの距離を歩いて学校に通ったそうであります。クヤホガ材木会社があるとき経営危機陥りました。その時、クランプはマネージャーとなり、会社の経営を好転させたということです。その後、同社を購入し、さらに銀行や汽船会社など数々の企業の社長や副社長に就任しました。1911 年に、クリーブランド RC の創立会員となり、1912 年には同クラブの会長、1916-17 年には国際ロータリークラブ連合会の会長を務めています。1917 年、クランプはアメリカ・ジョージア州アトランタで開催された国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で、慈善、教育、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案し、同大会で採択されました。この時ロータリー基金が設立されましたが、これがロータリー財団の前進であります。そして、基金への最初寄付は、1917 年、ミズーリ州カンザスシティロータリークラブからの、26ドル 50 セントでありました。しかし、今、世界中で大きな貢献をしているロータリー財団が初めから順風満帆であったかという、そうではなかったようであります。クランプは、人気も高く、尊敬された指導者であり、ロータリー基金が新しいクラブの設立や人道的救援の役に立つという彼の提案は好意的に受けとめられていました。しかし、6 年が経っても基金の残高はやっと米貨で 700ドルでしかありませんでした。そして、生みの苦しみを味わっていたこの基金も、基金総額が 5739ドル 7 セントに達した 1928 年のミネアポリス国際大会で、この基金による事業開始の時がきたとして、基金の名称をロータリー財

団と改め、国際ロータリーの定款・細則も改定されました。この変更により、全員元 RI 会長で構成される管理委員会が新しいこの財団を運営し、資金は、国際ロータリーと別に管理することが規定されたわけであります。1947 年 1 月 27 日に、ポール・ハリスがイリノイ州シカゴの自宅で亡くなりました。ポール・ハリスの逝去で、70 カ国以上 30 万人の会員から、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられるようになり、財団はポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表しているロータリアンに対して、財団強化のために寄付するよう要請をしました。その反響は素晴らしいもので、翌年の 7 月までに、米貨で 130 万ドル以上が寄付され、そのときの目標である 200 万ドルに近づいて参りました。そして、1947 年に最初の財団プログラムが実現されました。それは、高等研究奨学金と呼ばれ、1 年目は米国、ベルギー、英国、フランス、メキシコ、中国の 18 人の若い人たちが選ばれ、他国でそれぞれの専門分野を勉学しました。当時は、この人たちをポール・ハリス・フォローと呼んでいたそうです。ロータリー財団の機能が、効果的なのは、資金と人を組み合わせるからであります。アーチ・クランプは次のように述べています。「金だけでは、大したことはできない。個人の奉仕は、金がなければ無力である。この 2 つが組み合わせられれば、文明への天の恵みとなることができる。」ロータリー財団は、多くのロータリアンによって、大きく花開くことになりました。特に、日本のロータリアンの果たす役割は、ロータリー財団の大きな支えとなっています。ロータリー財団に寄付をするとき、ロータリー財団の資金を使って奉仕活動をするとき、アーチ・クランプの思いがその第一歩であったことを思い出していきたいと思います。本日は、ロータリー財団の設立とアーチ・クランプについてお話をさせて頂きました。

(3) 米山奨学生

ファム アイン ホアンさん挨拶・奨学金贈呈

(4) 100%出席バッチの贈呈

小林 敬直君 25 年

(5) 誕生日お祝い贈呈 (8 名)

(6) 結婚記念日お祝いの紹介 (12 名)

(7) 吉田和弘地区ライラ委員長より

10/22-23 ライラ研修開催報告

(8) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

樋熊 紀雄君 宇尾野 隆君

米山奨学会寄付発表(小林 敬直委員長)

高橋 清文君 小林 敬直君

青少年育成基金寄付発表(内田直紀幹事)

小林 悟君 高橋 清文君

(9) ニコニコボックス紹介

・地区ロータリー財団副委員長 後藤 隆生君 本日は、卓話に呼んでいただきまして誠にありがとうございます。できるかぎり、わかりやすく説明したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

・得永 哲史君 地区財団副委員長 後藤隆生さんを卓話に迎えて感謝します。

・宇尾野 隆会長 講師の後藤隆生さんを歓迎して。

・徳永 昭輝君 平成28年10月26日、新潟ロータリークラブの新しい活動として、職業奉仕委員会が企画した「出前授業」の講師としての役目を無事に終わることができました。この企画を受入れ、協力頂いた新潟医療福祉大学の山本正治学長、丸田副学長さんはじめ大学の関係者の方々には大変お世話になりました。大学キャンパスでの学生さんたちの気持ち良い挨拶や、よく整備された学園内の環境に感激して帰ってきました。講演の後の、質問、謝辞、花束贈呈なども心こもった対応にニコニコです。出前授業を企画しお世話頂いた細野職業奉仕委員長、織戸委員長、坂井さんに御礼申し上げます。

・清水康次郎君 10/21の結婚記念日にお花をいただきました。妻もニコニコでしたのでニコニコします。ありがとうございました。

(10) 幹事報告(内田 直紀幹事)

・11月5日、6日 地区大会第にご出席の方は、名札を 幹事よりお受け取り下さい。

・バスをご利用の方は、1号車に乗車願います。

(11) 卓話「ロータリー財団 100 周年記念にちなんで」

サブタイトル いまさら聞けないロータリー財団

地区財団委員会 副委員長 後藤隆生 氏

(12) 11月 1日例会の出席率 60.64 %

会員数99名(出席免除会員 9名)

出席者57名(出席免除会員3名を含む)

(2週間前メーク後 87.37 %)

11月1日 理事会報告 出席者10名

①定款細則変更について

小山定款細則検討委員会 小山委員長の説明後、2点修正後、承認。

修正点：細則 第6条第8節 及び 第13条

②年次総会告示について

12月6日 年次総会 11月8日 告示
日程通りで承認。

③「ロータリープレート」について

次回まで継続審議(見積もりがあがって来なかった為)

④ロータリーの席次について

クラブ会長、会長エレクト、会長ノミニ、直前会長、クラブ副会長、クラブ幹事、クラブ会計、クラブ会場監督、その他のクラブ理事、クラブ委員会委員長、元ガバナー補佐、ロータリアン、ロータリー財団学友

上記席次で承認。

⑤職業奉仕委員会 出前授業のメークアップ扱いについて

出前授業 計3回について、メークアップ扱いとする事が承認された。

⑥11月のプログラム=承認

11月 1日 財団月間に因む会話し

地区財団委員会 副委員長 後藤隆生氏

11月 8日 米山奨学生

ファム ホアン アイン さんのお話

11月15日 卓話

「吉良邸討入りは何故大成功したのか」

良寛研究家、東北民藝館長

(新潟大学 名誉教授 工学博士)

富澤 信明氏

11月22日 会員スピーチ

(株)北越銀行 新潟支店

取締役支店長 海津 博之君

11月29日 会員スピーチ

(株)テレビ新潟放送網

代表取締役社長 務台 昭彦君

⑦その他

・理事 細野氏より、同好会を作る場合、理事会の承認が必要か質問に、必要ないという旨の説明があった。

【報告事項】

・2018～19年度ガバナーノミニ決定のお知らせ

三条RC 川瀬 康裕 様

・地区運営改善案の再確認

10月理事会議事録通り

新潟ロータリークラブ会員による「出前授業」第二回目を実施

職業奉仕担当理事 細野 義彦

職業奉仕委員長 織戸 潔

職業奉仕委員会による「出前授業」の第二弾を11月1日(火)、新潟青陵大学短期大学部において開催し、人間総合学科1年生約200名の学生が受講されました。講師役を務めたのは、株式会社塚田牛乳 代表取締役社長 塚田 正幸会員です。冒頭、当委員会より、出前授業を企画した主旨説明を行った後、講義に入りました。

テーマは、「心を揺り動かされたこと」で、「自己紹介」、「会社概要説明」に始まり、「牛乳ビジネス」の話に触れました。その後、「私の人生」について、新潟大学塚田医学奨学基金設立、小児がんの厳しい現実、母との別れ、東日本大震災の支援と、貴重な経験談を語りました。最後に、若い皆さんへのメッセージとして、この世に生まれて来ること自体が奇跡なのだと、命の大切さを訴えました。

また、当日は、同社製造部、田部 加奈恵さん(入社3年目)も参加され、「社会人になれば楽しいことばかりでなく、精神的に辛い時もある。社会に対して不安はあるけれど、一つ一つの仕事を丁寧に達成することにより、仕事の面白さ、充実感が生れてくるもの」と、メッセージを送りました。

(写真をホームページに掲載致しました。)

11月15日の例会予定

卓話 「吉良邸討入りは何故大成功したのか」

良寛研究家、東北民藝館長

(新潟大学 名誉教授 工学博士)

富澤 信明氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>